NEWSLETTER No.14 2007 年 7 月発行

筋ジストロフィー／筋萎縮性側索硬化症（II）

エドガー・ケイシー療法の示す
神経筋疾患の原因と治療法（その 2）

Sample

第 14 号の内容

- Encyclopedia of Healing から「筋萎縮性側索硬化症」の翻訳
- Physicians Reference Book から「筋萎縮性側索硬化症」の翻訳
- デイビット・アトキンソン氏インタビュー「ALS からの生還」
- リンダ・カプティ氏による手記「筋ジストロフィーからの復活」
- リーディング原文資料（907-1）

編集・発行 NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター

はじめに

前号のニュースレター No.13 では、筋ジストロフィーならびに筋萎縮側索硬化症に関するエドガー・ケイシー療法の概要と、実際のリーディングをご紹介いたしました。

今回も引き続き筋ジストロフィーおよび筋萎縮性側索硬化症に関するエドガー・ケイシー療法のアプローチに関するレポートをまとめてみました。前号では筋ジストロフィーに関するレポートを中心にまとめましたが、今回は筋萎縮性側索硬化症を中心にまとめました。

特に、筋萎縮性側索硬化症をケイシー療法で克服されたデイビッド・アトキンソン氏の体験レポートと、筋ジストロフィーをケイシー療法で克服されたリンダ・カプティ氏の体験レポートはケイシー療法によってこれらの困難な疾病に取り組まれる方々に大きな勇気と希望をもたらしてくれるものと思います。

エドガー・ケイシーの遺した情報が、これらの難病に苦しむ方々の治癒に少しでもお役に立てますことを心より願っております。

2007 年 7 月 24 日

日本エドガー・ケイシーセンター
光田　秀

Sample

第 1 章

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) に対するケイシー療法の概要

エドガー・ケイシー療法全書（Encyclopedia on Healing）から筋萎縮性側索硬化症に関する部分を翻訳してみました。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は神経組織および筋肉組織が変化していく進行性の疾患で、40 代から 60 代に好発する。症状としては、多くの場合、手足（特に手）の筋肉が消耗し弱くなり、筋肉が徐々に萎縮して行く。発症後の平均余命は 3 年といわれる。

ALS に対するリーディングは 1 件のみだが、ALS の原因を、排泄不良や、化学成分のバランスが崩れたことで神経鞘が破壊されているといった一般的な原因に帰している。また、それらの原因の根底に感情と日常の心のあり方の問題も指摘された。

Sample

1.1 治療法および症例

ケイシーのリーディングには ALS の患者 [5019] に与えられたものが 1 件存在する。34 歳の男性で、彼の症状はわずかに足を引きずることから始まった。彼の状態は徐々に悪化し、片方の腕が麻痺し始め、歩くときには杖が必要になってきた。ケイシーは彼の状態を診断し、体に金が不足していることが原因であると述べ、それが脊柱の神経鞘の栄養不足と衰弱を招いたとした。さらに、具体的な内容は示さなかったが、その根底にカルマの影響があるとした。

ケイシーは毎日 30 分間ウエットセルを使用することを勧めた。ウエットセルで使用する溶液はアトミダインと樟脳精を交互に使う。アトミダインを使用する時には、銅プレートは腰椎に装着し、樟脳精を使用するときは、銅プレートは腕中枢、つまり胸椎 1 番と 2 番または 3 番と 4 番の部位に装着するように指示された。

ウエットセルを使ったなら、その都度、ピーナッツオイルとラノリンを混ぜたオイルで

30 分から 45 分間マッサージする。ケイシーはさらに塩化金と臭化ナトリウムを蒸留水に溶かしたものを少量内服することを勧めた。でんぷんとアルコールは避けるべきものとされた。この患者は聖書を読むこと、特に出エジプト記 19 章 5 節と申命記 30 章を読むことを勧められた。

このケースについては追加レポートはない。

翻訳：光田　秀

Sample

第 2 章

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の治療方法

ウィリアム・マクギャレー医学博士

2.1　生理学的考察

筋萎縮性側索硬化症は錐体路（運動ニューロンの遠心性経路で延髄の錐体を通る経路）および下位運動ニューロンの神経変性疾患と定義され、筋萎縮と線維性収縮による運動麻痺と痙攣が生じ、最終に延髄の神経核に障害が及ぶ。身体の運動系の疾病群の１つであり、原因は現代の医学においても未だに謎である。

参考になるリーディングは 53 歳の男性が１件あるのみだが、彼の状態は上記の定義によく一致していた。彼はゆっくりとしか歩くことができず、しかも歩行は不安定で、杖を必要とした。筋肉は収縮し、一方の腕は萎縮が始まっていた。

リーディングは、筋萎縮性側索硬化症に対して多発性硬化症とほとんど同様の治療を勧めており、またこれらの疾病の原因も類似している。

生理学的には、何らか影響で、消化管からある特定の栄養素をうまく同化できなくなるようである。このリーディングでは、それらの第一次的な原因については言及されていないが、明らかに、ケイシーが呼ぶところの「カルマ」と何か関係があると思われる。いずれにしろ、ケイシーは、同化不良が原因で、神経と筋肉の補充と再生に必要な材料が血流に不足すると見なしている。彼は、全身の細胞は常に再生されなければならないと考えている。筋肉の活動を支配している神経細胞もその例外ではない。ケイシーは、必要な要素がごく微量ながら長期間にわたって不足することで、疾病が顕在化すると見なしている。

多発性硬化症の場合、不足する元素は金である。つまり通常であれば消化管を通して同化されるはずの金が不足するということである。特にこれらのケースでケイシーが頻繁に

Sample

指摘しているのは、乳び管の部位である。

この初段階の欠乏は明らかに、前角細胞を徐々に劣化させ、それが結果的に神経エネルギーを低下させ、筋肉の萎縮を招くことになる。おそらくこの欠乏が既に低下している同化系をさらに悪化させるという悪循環を引き起こし、この疾病の進行を早めることになるものと思われる。リーディングはこの状態を、四肢における神経および筋肉のスタミナの欠乏として述べている。

2.2　治療原理

この 1 件のケースをもとに治療法を論ずるとなると、いくぶんなりとも、このケースを拡張して治療原理を引き出していかなければならない。ケイシーは筋萎縮性側索硬化症と多発性硬化症との間に多くの関係を認めていることから、かなりの原理を多発性硬化症のリーディングから導くことができる。

ケイシーの考えるところによれば、この疾病はカルマに原因があるために、患者は身体に備わる神聖なる力に心を向けるという姿勢をはっきりと打ち出すことが要求される。カルマの影響があるケースでは、患者の姿勢がはっきりと変わらなければならない。さもなければ治療は何の成果ももたらさない、とケイシーは主張する。「この人が身に付けるべき態度とは、ただ単に善良であるだけでなく、何か具体的に善を為さなければならない。生命の表現は、神聖なるものである。その神聖さは、神と呼ばれる影響力、諸力である。それを乱用してはならない。善用しなければならない。」(5019-1) と。

従って、肉体面での治療を始める前に、精神的な活動において変化が生じなければならない。このことは各治療で特に強調されなければならない。治療を施術する側には患者の内面的な変化は必ずしも明らかではないが、患者本人には充分自覚されるところであり、患者はこのリーディングで述べられている真実に面と向き合わなければならない。

金の欠乏が原因となることから、 ウエットセル装置を使って「低電位の放射活動」(5019-1) による浄化と癒しの力を身体にもたらす。そして金そのものは経口摂取させる。このリーディングではウエットセルを使って金の放射活動を与えることは述べていないが、この依頼者が 2 件目以降のリーディングを取得していたなら、ウエットセルによって金を与えることが勧められたであろうことは充分に考えられることである。ウエットセルで金を使うべきかどうかは、治療にあたっている医者が患者の状態を評価して決めるべきことである。アトミダインと樟脳を使ってウエットセル治療を 2 ヶ月間行ってまったく改善がみられない場合は、それらの溶液の代わりに金溶液を使用すべきだと思われる。そしてアトミダインは経口摂取させるようにする。

この疾病のプロセスの理解を深めるにはリーディング 907-1 を精読すると良い。リーディング 907-1 は多発性硬化症に対するものであるが、先述の通り、多発性硬化症は病因

Sample